

JAによる地域を元気にする素敵なお話。

JAふるさとの育む人 #35「リーフレタス」

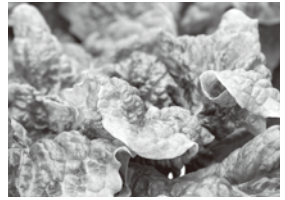
育む人 佐藤 栄子さん 雄物川地区 60歳

生産品目：リーフレタス1,200株(ハウス1棟)、米5畝、スイカ1.5畝



土を使わない「水耕栽培」でリーフレタスを栽培

雪深い田畑の一角——。ハウスの中では春を思わせるような一面の緑が広がっています。近代的なハウスの中で整然と並ぶのは、様々な種類の「リーフレタス」。水耕栽培という栽培方法で、土を使わずに水だけで栽培が行われています。栽培環境の温度や湿度が管理しやすいため、病害虫や連作障害などを抑えることができるほか、農薬を使わずに高品質でおいしい安全な野菜を栽培することができます。



冬期農業として導入し、現在は1年を通して生産

生産者のひとり、佐藤栄子さんは夫の弘さんとともにリーフレタスの水耕栽培を始めて2年目。米やスイカなどの栽培を行っている佐藤さんたちは、冬期にも生産できる野菜として導入し、現在は1年を通して「サンチュ」や「グリーンリーフ」「レッドリーフ」などのリーフレタスを生産しています。

栄子さんらが導入している栽培は「里山式水耕栽培」と呼ばれる栽培方法。ハウス1棟の中に3列にわたって計12台の栽培槽を設置し、1台につき100株、計1,200株を栽培しています。



比較的順調に収穫できる“魅力”

リーフレタスの栽培は、種を専用トレイのスポンジにピンセットで播くことから始まります。発芽育苗機で光を当てながら1か月ほど育苗し、根がある程度伸びたところで、苗の一つひとつ栽培槽のパネルに定植。その後、栽培槽のポンプを動かし、水と肥料を循環させながら生育することで、2週間ほどで葉が大きく生長し、順番に収穫していきます。

栄子さんはその栽培について「ハウス内の温度管理が要。それに気を付けるだけで比較的順調に収穫することができる」と、水耕栽培の魅力を語ります。



地元出荷にこだわり、地産地消に貢献

出荷の際は、3種類のレタスを1パックにして出荷する栄子さん。遠隔地への出荷は鮮度を守る面で課題が残るため、栽培当初から地元への出荷にこだわってきました。そのこだわりを広げようと、昨年、JA秋田ふるさと直売の会「安心畑」に入会。拠点となる「安心畑イオン横手南店」などへの出荷を積極的に行いながら、いま、地産地消への貢献に力を入れています。

「今後はレタス以外の葉物野菜にも挑戦して、多くの人に美味しさを届けたい」と意気込む佐藤さんご夫妻。今日も夫婦二人三脚で、横手のハウスから新鮮野菜を届けています。



「育む人」は  JA秋田ふるさとの協力で制作しています。

問合せ先
総務課 TEL0182-35-2634